

リスが高森山に復帰

7年ぶり、山中の観察用ビデオが姿とらえる

今年7月下旬高森山東斜面で、リスの食痕とみられる松ぼっくりの軸（通称 エビフライ）や鱗片が見つかった。6～7年間も姿を消していたニホンリスが高森山に来ているという望みがでてきた。その場を中心に春日井リスの会メンバーが証拠となるエビフライを探す。エビフライは高森山周辺に点在していて山頂でも見つかっている。確実にリスの存在を決定づけたものは11月に、山の数か所に設置した自動監察用ビデオカメラに姿が写ったことでした=写真。

ここ5年ぐらい高森山の環境は大きな変貌を遂げていた。「どんぐり s」会員らが雑木を除伐し、森が明るくなり、散策するコースも増設され、公園周辺の工事も始まった。一方、イノシシが入り込み植物が荒らされた。松枯れが進みたくさんの松が切られた。リスが住める環境は悪くなるばかりでした。そんななかリスの会メンバーは諦めず、いつかリスが高森山に戻ってくることを、ひたすら信じていた。一丸となって松を育てる取り組みを開始した。リスが高森山に戻ってきて本当に感激しました。

リスの会は、これまで餌場を設けリスにクルミの実を提供していました。クルミの消費具合でリスの状況がわかり、食痕によっては子リスが生まれていることも把握できた。また松の調査木を決めてエビフライの数の調査にあたった。リスの巣の調査で山の中を駆け巡ったり、クルミの木を植えたりもしました。市民から「リスを見たよ」という言葉に喜びを感じたりもしました。

リスが高森山にいつづけて欲しいという一念で活動をつづけてきました。大変だったのはリ



スに与えるクルミの確保でした。4000～5000個のクルミを木曾川河川敷まで行き大変な思いをして集めたことは、今でも思い出します。奇跡とも言える高森山にリスが戻ってきたことは、日頃の努力の積み重ねがリスに通じたのか？ どうか高森山のリスを暖かく見守って頂きたいと思います。（春日井リスの会会長・右高 英司）

住まい困りごと無料相談

- 電話または直接面接会場にお越しください。
☎080-5297-8956(長谷川)
- 面接相談会日・会場
12月25日(日) グルッポふじとう
1月26日(日) グルッポふじとう
(いずれも 13:30～15:30)
・当会員の一級建築士が相談の応じます。

暮らし相談 ハート・ほっと・ルーム

- 暮らしや心の悩みを語り合いましょう。
- 開催日・会場
12月22日(日) 養樂福祉会たかもり
1月26日(日) 養樂福祉会たかもり
=高森台5-6-6 「カフェはなもも」の隣り
(いずれも 13:30～17:00)
- ・連絡先：☎090-6330-4393 参加費：無料
- ・専門家による個別相談、別途予約受付けます。

高森山でドングリ採取

高森台小1年生が野外学習

10月23日、高森台小学校1年生34名を引率し高森山で野外総合学習会を実施した。ドングリを拾い集めて種類による違いを学習するものだが、高森山には10種類以上のドングリがあって大人でも名前は覚えるのが大変だ。そこで、1年生でも見分けがつくようにパンツ（殻斗=帽子とも言う）の形の違いを見てもらった。拾ったドングリがシマシマパンツ、ブツブツパンツ、イガイガパンツ、チューリップパンツのどれなのかだ。

ドングリが落ちていると私たちはつい拾ってしまう。食料についていた頃の習性だろうか。子どもたちも歓声をあげて拾っては自分の袋に入れている。山頂では高森山が50年前に火事で禿げ山になり、小中学生がドングリを播いて森づくりをした話や1週間前に鉢の中で発根したアベマキを観てもらったりした。

熱中のあまり時間をオーバーしてしまうことになったが次世代の多感な1年生の心の片隅に残

ることを願ってやまない。今後も継続的な活動として毎年実施したいと思う。（山口 正恵）

山の恵みでXマスリース作り 「どんぐりっこ」がフルットでイベント

秋晴れの11月29日、高森山とお隣りの公園フルットのバーベキュー場で、「どんぐりっこ」のイベント「高森山の恵みでクリスマスリースを作ろう」を開催しました。43名もの参加を頂き、大変賑やかな会となりました。

はじめに年齢ごとの4グループにわかれリースの材料を集めるとろからスタート！なるべく子ども達自身で採取して貰い、沢山のツルや木の実など、高森山の恵みを集めました。フルットで、採取した材料を使っていざれも個性的なリースに仕立てました。

リース作りの後は、お楽しみのクリスマスパーティーの始まりです！焚き火でマシュマロやパンを焼いたり、マテバシイのクッキーを食べ、クリスマスのお話のパネルシアターを観た後、ウクレレ演奏でクリスマスソングを歌いました。参加者の親子さんにもスズやタンバリンを用意して、クリスマスにちなんだものを身につけて頂き大変盛り上がりました。（作本 あゆみ）

私の朝・昼・晩

小中学校統廃合と「いじめ」

石尾台地区で開催された学校教育課の学校の適正規模の出前講座に出席した。ニュータウンは各校区ともに人口減、少子化により、学級が1クラスの所が多くなり、統廃合は時代の趨勢となっている。

市による適正規模（1学年に2学級以上）について、石尾台中学校区（石尾台中、玉川小、石尾台小、押沢台小）の保護者、住民の事前アンケート結果では、どちらも賛成が60～70%であった。特記すべきは、小中学生自身のアンケートもあり、9割以上が複数学級の必要性を強調していた。理由は、クラス替えを契機に新しい友達ができ、人間関係が広がる。運動会や体育大会等でクラスが活気づき、盛り上がる等である。

このアンケート結果は、「いじめ」防止の觀

点で捉えてみる必要がある。2024年度、文科省の調査では、いじめの認知件数約77万件、重大な心身被害件数1405件といずれも過去最多を更新した。1クラスが大半となり、クラス替えができないと加害者、被害者の悪循環を断ち切れないくなる。被害者にとって人格形成時に受けた心の傷は、その後の人生を左右し、うまくいかなくなる場合が多い。

私自身も小3時代に約1年間いじめを受け深く傷ついたが、翌年クラス替えがあり事なきを得た。その後の生き方に影響を及ぼし、いじめをバネに常に弱者の視点でものごとを見るようになり、それに伴った言行に繋がっている。

小中学校の適正規模は、いじめとの密接な関係もあり、子どもの人格形成を大きく左右するので、1学年に複数学級の配置は是が非でも必要である。（堀内 泰）